

【目的】抗悪性腫瘍剤の調剤時に行う処方鑑査は、重大な医療事故を防止するためにも、医療用医薬品添付文書のみならず患者個々のプロトコールや関連文献などの様々な情報と過去の処方履歴を参照しながら行わなければならない。従って、薬剤調製後の処方せんやプロトコールなどの調剤情報を患者毎に管理することは、適正な処方鑑査を行う上で極めて重要となる。東京大学病院では、平成13年より全診療科の入院患者を対象に、注射用抗悪性腫瘍剤の調製を薬剤部で実施しているが、その際の処方鑑査で活用する調剤情報は患者毎にファイリングし保管してきた。しかし、患者数増加に伴い(500-600件/月)、管理および検索に長時間を要していた。そこで、本研究では抗悪性腫瘍剤の調剤情報が患者毎に閲覧可能な処方鑑査支援システムを構築し、処方鑑査業務の効率化を試みたので報告する。

【方法】本システムのデータベースは、FileMaker[®] Developer 7 を用いて構築した。また、プロトコールは各診療科で汎用されているものを収集した。調製後の処方せんやプロトコールなどの調剤情報はスキャナを用いて取り込み、検索に用いることができる情報を付加してデータベース化し、処方鑑査に活用した。

【結果・考察】本システムに登録された調剤情報は、患者氏名や患者番号から検索することができ、処方鑑査時の閲覧が簡便となった。一方、調製後の処方せんを本システムへ取り込むのに要した時間は、従来のファイリングする方法と相違がなかった。また、プロトコール検索時に処方薬剤を入力することにより、登録されたプロトコールからの抽出が可能となり、処方鑑査時にプロトコールを短時間で確実に検索できるようになった。以上から、本システムを活用することにより、抗悪性腫瘍剤の調剤時に行う処方鑑査業務の効率化が進められた。